



B棟 9階 被災状況

証言

PM7:30頃に出先からやっと家に帰った時の状況です。

当日夜に民生委員3名と連絡を取りあい、独居高齢者の安否を確認しあいました。翌日までかかりましたが、全員と連絡が取れました。

解説

写真1：ガラス扉が割れるようなことは、無かったようですが、タンスからは一部衣類が飛び出しています。観音開きのタンスの場合、中身が飛びたしてくる事も前提に耐震固定しましょう。

写真2：玄関下駄箱の上にある置物や花瓶などは注意が必要です。

幸い破片で外に出れなくなる様な状態ではないですが、ガラスや陶器が割れると非難経路が断たれます。

写真3：ガラス扉が割れるようなことは、無かったようですが、中に置かれているものが倒れています。ガラスのみの引き戸は、中身が飛び出す可能性があるため、ガラス飛散防止シート等を貼っておくと良いかもしれません。

民生員としての対応・体験

1. 蓮田病院内で震災を体験したわけですが、家内とやっと家に帰ったのは7時半頃でした。家の中は少々の被害はありましたが大事には至らず、片付けてから管理センターに行きパークシティ内の状況を聞きました。エレベーターが停止しているとの事でしたが、その時はあまり共用部、個別部の被害情報はありませんでしたが、和室に一家族が避難しているとの事でした。

2. しかし民生・児童委員の立場として災害時要援護者登録をされている独居高齢者の方の安否確認が必要と、他の民生・児童委員と連絡・相談の結果、明日中にでも安否確認を取ろうということになりました。

3. 私の担当地区では対象者は約10名でしたが、その日の夜から連絡を取り始めました。しかし、まだ電話連絡が今一つ機能せず、管理事務所のインターフォンを借りて連絡を取り始めました。その日は約半数の人と連絡が取れたと記憶しています。

残った方は翌日に行くことにしました。

4. 翌日にすぐ連絡が取れた方、2回目、3回目の連絡でつながった方もおられましたが、一人の方は出かけた先の避難場所から動けず、そこに泊まることになり家に帰れなかったという方もおられました。でも、翌日中にはパークシティの独居高齢者全員と連絡が取れ安否が確認されました。

5. 二日後に白岡市から連絡があり、独居高齢者の安否を確認するようにとの指示がありました。しかし、もし災害が起きていたら遅かったですよね。

6. 自主防災会にも災害時要援護者登録システムがあり、初期の安否確認が大事とされていますが、非常に大切なシステムですね。



B棟 9階 耐震補強

解説

大きな家具や食器棚タンスなどに、転倒防止用のつっぱり棒を使って補強しています。

観音開きの扉は、中の物が飛び出してこないように、引手を紐で結ぶ対策を施してい

ます。小さな事ですが、この扉が閉じているだけで、中身のガラスや陶器の飛び出し範囲がかなり抑えられます。

また、ガラス扉には裏側からガラス飛散防止シートを貼るとより安全性が増します。

是非参考にしてみましょう。



C棟 14階の被災状況1

証言

マミーマートに買い物中、大きな揺れが来ました。直ぐに帰宅した時の様子です。

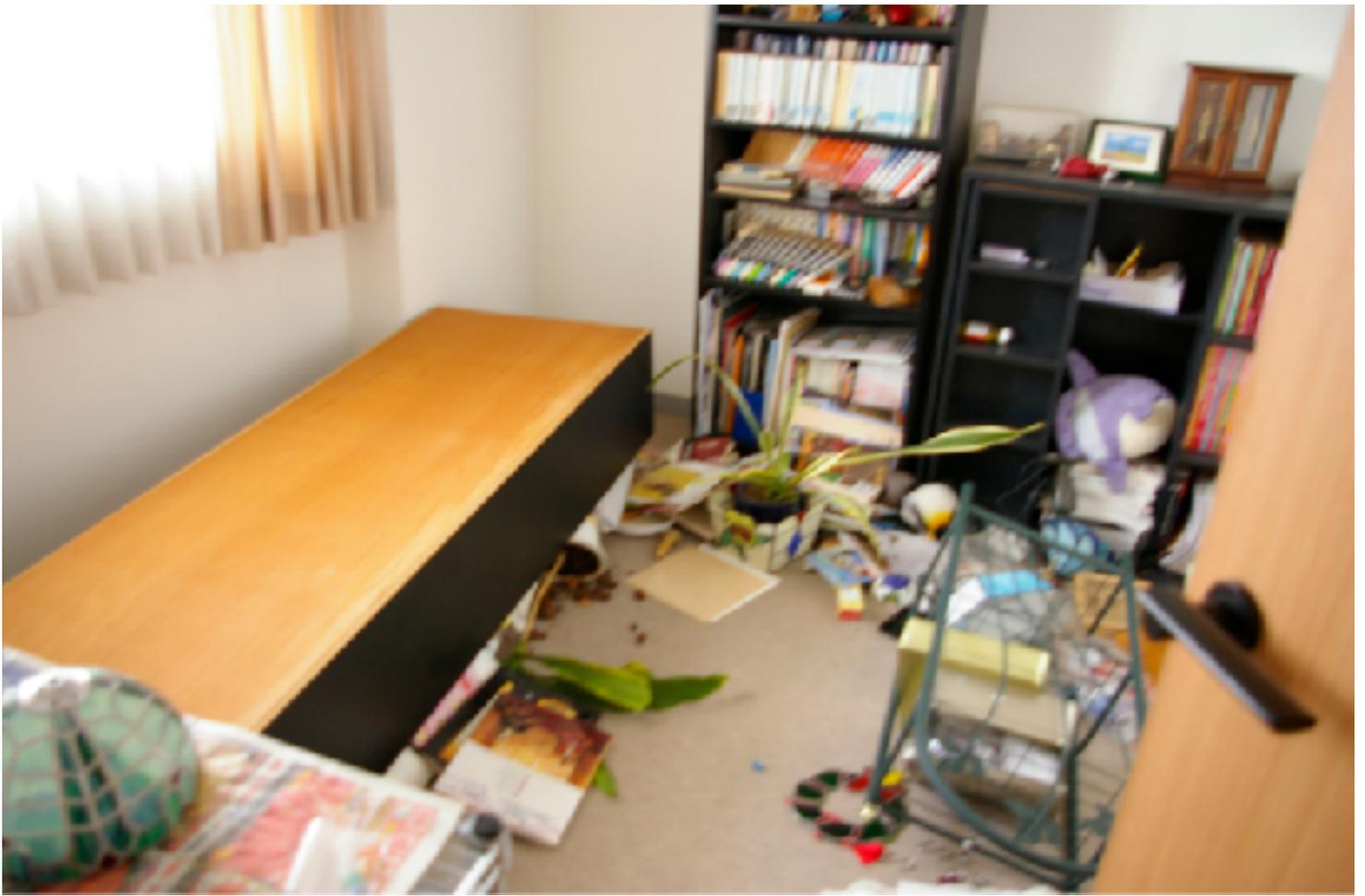
食器棚から沢山の食器が飛び出し全て割れていました。近づく事も困難でした。

一番遠いものは反対側の壁まで達していたので、壁に小さな窪みがありました。

解説

食器棚や飾り棚の中にある、割れ物は非常に危険です。

できるだけ耐震ロックなどで飛び出さないようにした方が良いでしょう。



C棟 14階の被災状況2

証言

マミーマートに買い物中、大きな揺れが来ました。直ぐに帰宅した時の様子です。

居室の本棚が完全に倒れていました。

観葉植物の鉢が本棚と本の下敷きになっていました。

解説

本棚などの家具の転倒防止はとても大切。無人だった事で、怪我人が出なかったのが幸いです。

もし、幼児がここに居たら大変な事になったと容易に想像できます。



C棟 14階の被災状況3

証言

マミーマートに買い物中、大きな揺れが来ました。直ぐに帰宅した時の様子です。

書斎の中は、完全に物で溢れかえってしまいました。特にダンボールで詰んでいた荷物や箱が全て落ち、PCのディスプレイは倒れて椅子が埋まってしまいました。

解説

棚の上に、ダンボール・荷物がある場合、大きな揺れで頭上に落ちてくると想定してください。

1～2kgの荷物でもダンボールの角で直撃すれば頭蓋骨を骨折する程の力になります。



C棟 14階の被災状況4

証言

マミーマートに買い物中、大きな揺れが来ました。直ぐに帰宅した時の様子です。

ベッドの上には、壁ハンガーが倒れ込んでいました。温水暖房機はその力で倒れて居ました。

本当に就寝中でなくてよかったです。

解説

寝室に倒れるような家具を置くのは非常に危険です。特に夜間は停電も想定される為行動ができなくなります。

また「暖房機器」は、どんな軽微な家具の前にも置いてはいけません。これが使用中の電熱ストーブやファンヒーターだったら確実に火災を起こします。



C棟 14階の被災状況5

証言

大きな揺れが収まり片付けを始めた時の様子です。割れ物があった部屋は全部こんな感じで下手に歩けませんでした。

割れた食器を片付けている途中、軍手をはめてましたが、何枚も破れて交換しました。大方の掃除が終わった後もカーペットの隙間に小さなガラス片が数日間出て来ました。

解説

「まずは安全に非難する」が最優先ですが「揺れた＝ガラスの海になっているかもしれない」と想像しましょう。

居場所から移動するにも、スリッパや靴などで足を保護する事を忘れず、慌てて裸足で動かない方が安全です。特に寝室には必ずスリッパを置く習慣を身に着けましょう。真っ暗な中、この上を裸足で歩くのは非常に危険です。



C棟 14階 耐震補強

解説

大きな家具や食器棚タンスなどに、転倒防止用のつっぱり棒を使って補強しています。観音開きのガラス扉は、中の物が飛び出さないように、引手を二重紐で結ぶ対策を施しています。

ガラス扉には裏側からガラス飛散防止シートを貼り付けています。

収納している物自体の配置も非常に重要です。被害の激しかった上段は、軽く割れないような物、パン籠や木・紙製品を置くようにしています。

小さな器やワイングラスなどは奥へ、大皿などは手前下段に移しました。

「重い物は下段、軽い物は上段。大きな低い物は手前、小さな背の高い物は奥へ」

使い勝手や見栄えは悪くなりましたが、被災した時の被害を考えるとこのような配置変更だけでも危険回避できると言えます。



物流停滞と物資不足

証言

震災当日は帰宅できなかったのが震災直後の様子はわかりませんが、3/17のマミーマート、3/15の東武ストアの様子です。

解説

直接の危機から逃れた後には、被災下での生活が待っています。物流は停止し、食品・飲料水の生活物資が日頃の様に手に入らなくなります。

白岡近辺は、水道・電気・ガス等のインフラに問題はなかった訳ですが、日常生活への影響が、物資不足というかたちで現れました。

食料を調達しようにも物流が止まり、インスタント麺、パン・米類等が、店頭から消えてしまいました。パンと米類は25日には並び初めましたが、水はありませんでした。

最低でも無補給で3日分の備蓄を心掛けましょう。「ローリングストック法」等を使って、備蓄品を効率良く使い被災直後に、店舗に買い占めに走らずに済む様備えが大切です。

被災して直ぐには、保存食を使わず、先ず生鮮食品・冷凍食品→冷蔵食品→日常食品→保存食の順で活用してください。